

# スリランカの小学生との交流を絵と絵日記の交換からはじめよう。 そして、世界中にひろげよう。

神戸市立春日台小学校

上野 耕一

- ・実践教育 生活科 図工科 防災教育
- ・時間数 7時間
- ・対象学年 2年生
- ・対象人数 98人

## 1. 実践の目的

小学校低学年の児童の国際理解教育であるため、絵や絵日記の交換を交流活動の中心とした。まず、遊びや食物・服装など生活への関心や興味をもつことから始める。そして自然のすばらしさ、命の大切さ・家族の大切さを考える活動を取り入れたい。

子供たちには、国が違って、どの国の小学生もみんな遊びが大好きで、夢や希望をもって、苦しいことに負けないでたくましく生きていることを知り、広い世界に目を向けて人とかかわる力をつけ、困難な状況のときも負けないで、力強く生きていってほしいと願っている。

## 2 授業の構成（全7時間）

- スリランカの小学生が描いた絵が、春日台小学校に届いたよ。（1時間）

「わあ、ゾウにのって遊んでいる。」

「踊っている服がかわいい。」

「日本にない建物があるよ。」

- 日本とのつながり（1時間）

「日本のみなさんや、JICAの方々のおかげで、町がきれいになりました。」

「スリランカの遊びや食物など詳しい人に聞いてみよう。」

- 津波なんかに負けないぞ（防災教育）（1時間）

「インドネシア沖地震の大津波で、スリランカも大きな被害を受けたんだね。」

「津波が起こったら、高い場所にすばやく逃げないといけないね。」

「ぼくたちに、できることを考えよう。」

- 私たちも、スリランカの小学生に、絵や絵日記を送ろう。（2時間）

「なわとび・こままわしで遊んでいることを知らせよう。」

「神戸の町のことを知らせよう。」

「春日台小学校のことを知らせよう。」

- 世界中の小学生に、絵や絵日記を送ろう。（2時間）

「はやく返事が来るといいな。」

### 3. 成果と課題

外国の小学生から「昼なのに日本では太陽が赤色なの?」「日本では犬や猫はいつも左を向いているの?」と、質問されて、日本の子供たちはみんな太陽を黄色でなく赤色に、動物は頭を左側に描いていることに気がついた。また、日本の八月は夏休みで暑いけど南半球の国では、八月は冬休みで寒いことを知り驚いた。その他に、日本の小学校では給食を学校で食べるが、家に昼食を食べに帰る国があることや、朝は遊んだり家の仕事をし昼から学校に登校する国があるなど、日本とはいろいろ違いがあることを知った。

外国の小学生との絵や絵日記の交流で、外国にも自国とよく似た遊びや食物があることに親しみや関心を持ち、もっと交流を続けたいという意欲が高まった。みんな遊びが大好きで、家族が大好きで、将来の夢に向かってがんばっていることを知り、外国の小学生を身近に感じるができるようになってきた。低学年には電子メールではなく、指で絵を触るとクレパスや色鉛筆の色がついたり、画用紙の裏に描いた線のへこみがあったりした方が温もりを感じてよい。

しかし、小学校1～2年生には、総合学習の時間がないため国際理解教育・開発教育に取り組める時間数が限られているのが残念だ。また、絵や絵日記を送っても返事がこなかったり、返事に日数がかかるのが、難点である。そして、日本では四月に学年とクラス担任が移動するが、外国では夏や秋に学年とクラスが移動することが多いので、継続して交流を続けることも難しい。

#### ☆絵や絵日記を送った小学校

1. スリランカの小学校
2. モルジブの小学校
3. モーリシャスの小学校
4. 南アフリカ（ケープタウン）の小学校
5. マダガスカル小学校
6. グリーンランドの小学校
7. タヒチの小学校

夏休みに スリランカの小学校を訪問したよ。



スリランカの小学生が 描いた絵が春日台小学校に 届いたよ。



「わあ、ゾウにのって 遊んでいる。」  
「踊っている 服が かわいい。」  
「日本には ない 建物が あるよ。」



「見たこともない字で 何か 書いている。」

「絵をみただけで だいたい 伝わるね。」

日本のみなさんや JICAの方々の おかげで 町が きれいになりました。



いつでも 水道の水を つかえます。



いつでも 水道の水を つかえます。



川が きれいに になりました。



町の トイレが きれいになったよ。



町から ゴミが なくなったよ。



いやな においが なくなったよ。

## 「津波なんかに負けないぞ」

(インドネシア沖地震の 大津波で被害を受けた スリランカの漁村の家族)



### ◎日本とのつながり (防災教育)

○ねらい

- ・ みんなで助け合いながら、困難な状況に負けないで、希望をもって力強く生きていこうとする家族の心情に気づく。
- ・ どんなつらいことや、苦しいことにも負けず、希望をもってたくましく生きていく強い意志と態度を養う。

#### 学習活動

1. 大津波で被害を受けた、スリランカの漁村の家族の写真を見る。
2. 地震の後、津波が発生することがあることを知る。
3. 津波が起こったときの、安全に非難する方法を考える。  
(海岸は危険) (高い場所にすばやく逃げる) (テレビやラジオの情報に注意する。)
4. 日本をはじめと世界各地で発生災害によって、多くの人が突然困難な状況に陥ることを知る。
5. 復興にむけてJICAの活動など様々な取り組みがあったことを知る。
6. 希望をもって生きようとする漁村の家族の気持ちを考える。  
(命の大切さ) (家族の大切さ)
7. 阪神淡路大震災から復興してきた、神戸の町のことを絵と文章でしらせよう。

絵の交流をインド洋の国々にひろげよう。  
モルジブの小学生から、絵が届いたよ。



モーリシャスからも、絵が届いたよ。





南アフリカ（ケープタウン）の小学生から、絵が届いたよ。

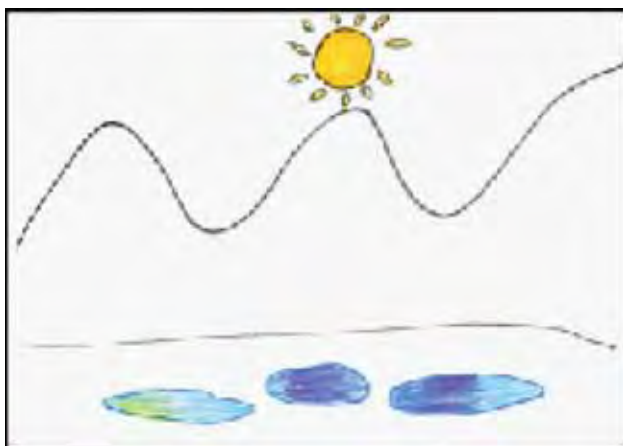


マダガスカルからも、絵が届いたよ。



絵の交流を全世界の国々にひろげよう。

グリーンランドから、絵が届いたよ。



タヒチの小学生からも、絵が届いたよ。



3年生になったら、どの国の小学生に絵を送ろうかな。

(私が訪問した約120校から児童が選ぶ。)

サ  
モ  
ア



ト  
ン  
ガ



サ  
モ  
ア



ト  
ン  
ガ



セ  
イ  
セ  
エ  
ル



ソ  
ロ  
モ  
ン  
諸  
島



キ  
ュ  
ー  
バ



ジ  
ャ  
マ  
イ  
カ

